

代を担う子どもたちが安心して育つ環境をつくるため、家庭・地域・学校の連携が必要です。

【具体的な課題】

○人と人とのつながりによる仲間づくり

地域コミュニティにおける住民同士のつながりや結びつきの希薄化は、地域での目配りや見守りが手薄になることによる治安悪化や住民の孤立をもたらすとともに、地域の防災力の低下にもつながります。

市民がともに学んだり、学んだ成果を活用し、活動したりすることで、生涯学習を通じて、人と人がつながり、絆を育むことが必要です。

○シビックプライドの醸成

高齢化の進展や共働き世帯の増加等により自治会の役員のなり手が不足し、自治会加入率が低下する中、子どもの頃から、地域の歴史、文化、地域の方々とのつながりを感じる機会をつくることで、将来は、自分が地域づくりの担い手として貢献したいという、地域に誇りや愛着を持てるような機会をつくる必要があります。

○家庭・地域・学校の連携

地域とのつながりの希薄化により、保護者が身近な人から子育てを学んだり助け合ったりする機会の減少など、子育てや家庭教育を支える環境が変化しています。このため、多様化する家庭環境に対し、地域全体で家庭教育を支えることが求められます。また、家庭や地域と学校との連携・協働を進めることで、家庭・地域の教育力を向上させることが必要です。

○子どもが成長していく上でのつながりづくり

地域と子どもに関する環境の変化では、市内の子ども会の加入者数と加入率が低下しています。子ども会をはじめとする青少年育成団体においては、子ども同士のみならず、多様な年齢、多様な立場の人との関わりを通し、コミュニケーションを積み重ねて得られる人間関係、信頼関係を築いていくといったこれからの生きる子どもにとって大切な経験が得られます。今後は、地域住民や地域の多様な機関・団体等が連携した世代間交流や体験活動を促進する必要があります。

第3章 生涯学習のこれからの方向

1. めざす本市の生涯学習社会と目標

本市の基本構想・基本計画（「元気発進！北九州」プラン）では、「人づくり」をまちづくりの基本方針の第一に掲げ、その具体的な取り組みとして、生涯学習を通して、多様な人材育成と住民主体のまちづくりを進めることとしています。

これを受け、平成23年度から5ヵ年を計画期間とする「北九州市生涯学習推進計画」を策定しました。策定以降、市民を取り巻く様々な社会環境の変化を受けて、平成28年度から新たに「市民が学び、つどい、まちは輝く。地域から学びの環を広げよう」を計画の目標に定め、5年間、生涯学習の総合的・体系的な推進を図ってきました。

市民の学習活動は、新しい可能性を見つけ、新たな自己を発見するという喜びを与えるものです。市民一人一人が、生涯にわたって、学び、活動することの楽しさや喜びを感じ、これを仲間と共有することは、家庭や地域を生き生きと活気あふれるものにし、社会の活力を維持・増進するものです。

一方で、人口減少や少子高齢化をはじめとする多様な課題の顕在化や、急速な社会環境の変化を受け、今後、地域社会においては、住民主体でこれらの課題や変化に対応することが求められています。また、地域固有の魅力や特色を改めて見つめ直し、その維持発展に取り組むことが期待されています。

こうした状況の中、住民相互のつながりの形成を促進することに加え、地域の持続的発展を支える仕組みをつくるため、市民一人一人の生涯にわたる学びを支援する必要があります。

行政が行う「生涯学習の推進」とは、「多様なニーズに対応して、市民が生涯にわたって、あらゆる機会にあらゆる場所において学習することができるよう、またその成果を活かすことができるよう支援すること」です。市民の生涯学習を推進し、個人のよりよい生きがいがづくりや生活づくり、また、暮らしやすい地域社会づくりにつなげていくため、関係機関と連携した各種事業の実施や情報の提供はもとより、「学び」と「活動」の機会の充実、市民が学んだ成果を活動に活かすことで新たな課題を発見し、その課題を解決するために更に学ぼうという学びと活動の循環につながる仕組みを構築します。

このような状況を踏まえ、本市のこれからの生涯学習社会の姿を描いたうえで、本市のめざす計画の目標を次のとおり決めました。